

図書館だより

'79.1

印象に残ったこと

山北 タツエ (英文学)

外国の図書館について何かをと云う図書館の御依頼ですが、米国では図書館のことを特に調べて廻る余裕はなく、英国でも出歩くのに忙しく、大英博物館を一寸のぞき、近くの公立図書館を数日訪れたこと位なので、長期間利用する機会のあった米国中部の二つの図書館について印象に残っていることを少々のべてみます。

一つは学生五百名程の小さな大学の図書館だが、床から天井まで四方がガラスの二階建、全開架、二階になっているのは一部だけなので室内が実に明るく、疲れた眼をあげると広い校庭の緑の芝生が見渡せて心地よい図書館であった。毎日利用して特に感じたことは大学のカリキュラムと図書館が歩調を合せて居ることである。蔵書はわずかに五万冊程であるが授業に関係のある資料がよく揃えてある。指定図書も同じ本が十冊二十冊と用意され、どんどん利用されている。むしろこれを利用しなくては授業が進められないのである。教育方針の違いであろうが、学生が調べ、自ら研究することを重視するだけに図書館は先づ直接関係のあるものを十分に用意する。関係の遠いものは他の大きな施設にまかせればよいと云うことであろう。

もう一つは学生一万を越す大きな大学の新しい九階建の図書館のことである。莫大な蔵書の他にヴァチカン図書館のマイクロフィルムを持

つと云うためか名称はピオ十二世記念図書館と云った。一階は参考図書、二階三階はつきぬけで雑誌の部、広いスペースに安楽椅子がちらほらと置いてあり、高い窓と窓との間の布壁は絵の個展にあてられている。個展と云ってもこみ合うことなどなく、読書に疲れると私はこの絵をいつも一人でたのしんだ。四階には男女別々に休憩室もあった。五階以上のことは記憶にない。九階の全部が開架のほうはないが、私の利用した所は書棚間を自由に歩きまわられた。ところが出口近くに関所があつてカバンの中を調べられるのである。印象に残ったのはこの係りの態度が警察官の如くではなく、友人の如くで、実に気持のよい顔でこの任務を果たしていたことである。莫大な蔵書をもつこの図書館であっても学生はほしい図書が他にかりられて困ることがある。そんな時便利なのは校舎の一室に州立図書館の出張所があることである。そこに備えてある本は三四千冊のわずかであるが、係りが連絡をとってくれると二日位で本がとどき、返本もこの室にすればよいのである。利用者の立場に立っての図書館の徹底したサービスで、日本より遥に仕事の多い米国の大学生には大助りなのである。

書いているうちに忘れたと思ったことが色々思い出されますが紙面がつきたのでこれで。

図書館をあなたのものに

— 本をさがす・和書の場合 —

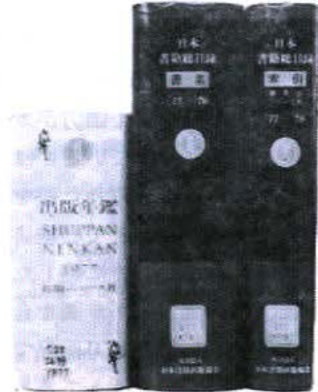
もう10年ほども以前のことになるでしょうか。『文献探索学入門』というもののいい名の本が出版され、話題になったことがありました。その後、少なからぬ数の類似の本が次々と出版されましたし、この本もまた、何度か改訂増補されて現在でも書店に並んでいます。毎年2万点以上もの新しい本が出版される現代では、必要な文献をいかに適確迅速に探したすかが、多くの人の関心を集めているのでしょうか。

皆さんは、日頃図書館を利用していかですか。必要な資料がうまく見つかりますか。もちろん、何か困るような場合は参考係や閲覧係の職員に相談してください。いつでも喜んでお手伝いさせていただきます。ですが、自分でちゃんと探せるようになったら、その方がずっといいに決まっています。そこで、今回は書誌とか目録とか言われるものを使って本を探す方法をご案内します。ところで皆さんは、図書館では本を和書と洋書に区別していることをご存知ですか。原則としては、本文が日本語であれば和書、横文字であれば洋書です。今回は和書の探し方です。では、Q&A式でやってみましょう。各書誌の編者、出版社等は最初に出てきた時に簡単に示し、請求記号は煩わしいので省略しました。すべて図書館にあるものです。

1. 『星の王子さま』の日本語訳の出版社と価格を知りたい。

これは現代の出版物の例です。書名がわかっていて、その出版社その他の情報を知りたい場合、『日本書籍総目録'77-'78』（日本書籍出版協会 2冊 1977）を見ます。この目録は1976年12月末までに発行され、かつ1977年9月現在で入手可能な、2156出版社の187,668点の本が掲載されています。1冊が五十音順の書名目録、1冊が著者その他の索引になっています。書名

目録の方で『星の王子さま』を探しますと2つ見つかりました。1つは「岩波の愛蔵版1 内藤濯訳 菊判 144頁 800円 小学上・中学 岩波書店」他の1つには「岩波少年文庫2010 B6変 160頁 400円 小学上 岩波書店」とあります。これで、『星の王子さま』は2種類ありますが、どちらも岩波書店の発行で、価格は800円と400円であることがわかりました。記述中の菊判とかB6変というのは本の大きさのこと、小学上・中学というのは小学校5・6年から中学生向の意味です。さて、この『日本書籍総目録』は、いわば出版社の在庫品目録ですから、当然絶版品切の本は載っていません。また、文部省とか札幌市役所で発行したようないわゆる官公庁出版物、その他最初から掲載を除外した本もありますので注意が必要です。この目録は新しい資料に基づいた改訂版が継続発行される予定です。また、ちょっと性格は違いますが、月2回発行の「これから出る本」という速報誌が新版発行までのつなぎになります。



新訂 保育叢書 岡田正章・角尾 勉編著 1976 A5
218頁 1400円 川島書店
保育叢書 教育演習双書 11 村山貞雄・岡田正章
編著 1975 A5 275頁 1500円 学文社
保育叢書 短大保育テキスト 佐藤正夫編 1976
A5 256頁 1300円 新聞出版社啓林館
保育叢書 新教職教養シリーズ 梅根 恒編 B6
290頁 950円 誠文堂新光社
保育叢書 現代幼児教育シリーズ 岡田正章・児
玉 省・藤田復生他著 1974 A5 240頁 1200円
東京書籍
保育叢書 幼児学叢書 6 祐宗有三監 森 敏編
1976 A5 200頁 1,000円 東京書籍

日本書籍総目録の本文の例

2. 五木寛之の作品を読みたいが、現在書店で購入できるものは何か。

本屋さんに行けば、そこの棚には何冊か並んでいるでしょう。しかし、どこの本屋さんでも全部の出版物を揃えているわけではありません。そこで前もって購入可能図書のリストを作る方が賢明というものです。この例のように特定の著者の本で現在購入可能のものを調べるには前に掲げた『日本書籍総目録』の著者索引が役に立ちます。この著者索引は書名編にある本の著者、訳者、編者、監修者などを個人、団体の別なく、名前の五十音順に並べています。日本人ですと、まず漢字名、次にその読み方をカタカナで示し、その後書名を列挙しています。ただし、書名だけで出版社や価格などは一切なく、詳しいことはいちいち書名編に戻って見なければなりません。五木寛之のところには『蒼ざめた馬を見よ』を初め、60点を越える書名が載っています。

3. 去年出版されたキリスト教関係図書のリストがほしい。

特定の年の出版物を調べるには『出版年鑑』(出版ニュース社)と『全日本出版物総目録』(国立国会図書館)があり、それぞれ各年の分が発行されています。国内で出版された図書雑誌は必ず国会図書館に1冊は納めなくてはならない法律がありますので、その意味では『全日本出版物総目録』の方が網羅性が高いのですし、信頼も置けますが、残念ながら刊行が遅れていて、最近のものはまだ出ていません。やむを得ず『出版年鑑』を見ることになります。排列は書名の五十音順ではなく、図書館でおなじみの日本十進分類法による分類順となっています。目次でキリスト教を見つけてから、そのページを開くと簡単にわかります。もし、これが去年ではなく今年という注文であれば当然『出版年鑑』は使えません。が、同じ出版ニュース社から『出版ニュース』という月3回発行の新刊案内誌が出ていますので、前に掲げた「これから出る本」と併せてご利用いただければわか

ります。

4. 遠藤周作の作品は文庫本でどのくらい刊行されているか。

現在発行されている文庫の目録は、もちろん各出版社でそれぞれ用意し、毎年新しいものを出していますし、たいいてい書店では無料でもらえます。例えば新潮文庫だけを調べるのであれば、その文庫目録を見ればいいのですが、この問題のように特定の文庫に限らず、ある作品またはある著者のものを広く探す場合には、別に便利な目録があります。その名も『便利な文庫の総目録』(文庫の会)と言い、著者別索引、出版社別索引、書名作品名索引等から成っています。1冊に複数の作品が入っている場合もそれぞれの作品名から探すことができます。図書館には1975年版しかありませんが、それで遠藤周作を見ますと、角川文庫新潮文庫その他で30冊ほどありますし、講談社から遠藤周作の個人文庫が出ていることもわかります。

5. 『書道技法講座』の出版社、出版年、巻数を知りたい。

現代の全集叢書類を調べる目録としては『全集叢書総覧』(八木書店 全訂版 1975)『全集総合目録』(出版ニュース社 1978年版 1977)『日本書籍総目録』索引編などがあります。『全集叢書総覧』全訂版は明治初年から昭和48年末までに発行された全集叢書及びこれに類するもの約15,000点をシリーズ名の五十音順に載せています。記述は簡単でシリーズ名、巻数、著編者または発行所、大きさ、初巻の発行年、価格を原則として各1行に組んでいますので、発行の事実はわかっていても、その内容までは手が届きません。『全集総合目録』1978年版は昭和52年9月現在で出版社に在庫の全集等のリストです。シリーズ名、巻数、著編者、大きさ、定価、発行所、初巻の発行年を載せ、排列は日本十進分類法によっていますが、書名索引がありますので、分類に不慣れな人でも大丈夫です。また、最近10年以内に初巻を刊行したも

のについては全巻の内容を付記していますが、既刊分がどれなのか分からないのが困ります。

『日本書籍総目録』索引編のシリーズ索引は、同書書名編に掲載した本をシリーズ名毎にまとめ、五十音順に排列したものです。シリーズ名、出版社名と現在(1977年9月)入手可能な巻の書名があるだけの簡単なもので、詳しくは書名編を見なければなりません。『書道技法講座』の場合、『全集叢書総覧』では出版社は二玄社、出版年は昭和43年より、冊数は16冊となっています。『全集総合目録』では冊数が既刊22冊となっていて、終期を定めていないことを思わせます。『日本書籍総目録』では35巻までの書名がありますが、出版年を調べるとなると書名編で35冊分を見なければなりません。このようにそれぞれ特色があって、1冊の目録ですべて判明というわけには行かないことが多いのです。また、時に記載ミスもありますので、2冊3冊の同種の目録で確かめて慎重を期すことが必要でしょう。

6. 明治時代にシェイクスピアの日本語訳で『自由太刀余波鋭鋒』というのがあったが、その訳者と原書名を知りたい。

明治時代の刊行物についての目録は数種類ありますが、図書館で所蔵しているのは『国立国会図書館蔵明治期刊行図書目録』(6冊 1971—76) 『明治文学書目』(川島五三郎編 復刻版 飯塚書房 1976) などです。前者は本文は分類別排列で書名索引あり、後者は著者別及び出版年順排列で書名索引なしです。ところで皆さん、この問題の書名が読めますか。書名が読めない場合は、当然五十音順の書名索引は役に立ちません。また、出版年等一切わからない場合、その調査は困難の度を増します。それでもこの例では「自由」は「じゆう」と読めるので、それで思い切って『明治期刊行図書目録』書名索引の「じゆう……」のところを見ます。そうすると「自由太 刀余波鋭鋒(シェイクスピア著 坪内逍遙訳……N 864)」とありました。これで読めないながらも訳者はわかりました。

次に第4巻の864ページを開くと、書名は「じゆうのたちなごりのきれあじ」と読むこと、東洋館という出版社から明治17年5月に出ていることが判明しました。ですが、まだ原書名はわかりません。書名の横にある「該撒奇談」というのも読めればともかく、これでは何のことかさっぱりわかりません。『明治文学書目』にはどういうわけかこの本は載っていません。シェイクスピア関係の本を見ても調べが付きません。さあ、困りました。お手上げかと思われましたが、筑摩書房から『明治文学全集』が刊行されていることを思い出しました。その中の『坪内逍遙集』をとり出してみると、巻末の年譜の明治17年の項に幸い記事がありました。『自由太刀余波鋭鋒』は「ジュリアス・シーザー」の訳なのです。図書館所蔵の『逍遙選集』別巻2には原本の扉の図があって「該撒奇談」も「しいざるきだん」と読ませていることがわかりました。更に『明治文学全集』の『明治翻訳文学集』を見ますと、巻末に「明治翻訳文学年表」があって、訳者、出版社はもとより原著者、原書名まで簡単に一覧できることがわかりました。この年表を知っていれば何もむずかしいことはなかったのです。最近の全集類や個人著作集には充実した解説、解題、書誌、年表を載せていることが少なくありません。日頃関係分野のその種類のものに注意しておくと、いざという時案外役に立つものです。なお、『自由太刀余波鋭鋒』は『明治初期翻訳文学選』の1冊として雄松堂書店より復刻刊行され、図書館にもありますので、手軽にご覧になれます。

7. 井原西鶴の作品を版本で見たいが、どこに行ったらあるのか。

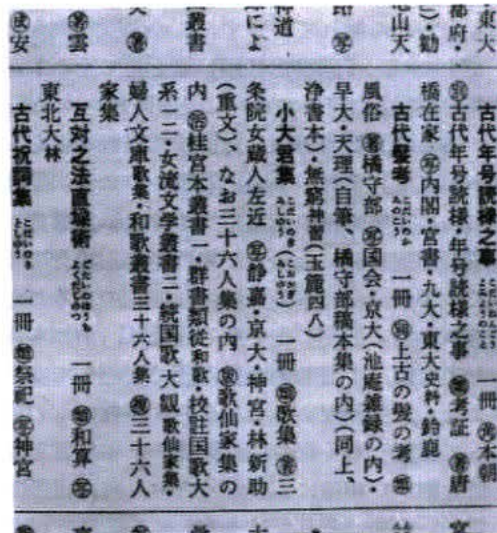
西鶴の全集・作品集は何種類もあって、活字本で読むのは簡単です。が、版本を現物でとなるとたいへんです。見せてもらえるかどうかもわかりません。でもまあ一応調べてみましょう。こうした古典ものの調査をする際の基本的な目録は『国書総目録』(岩波書店 9冊 1963—

76) です。この目録は国初から慶応3年つまり明治の前までに日本人が著作したもので、全国の図書館等で所在の判明しているもの約50万点を収録しています。利用上注意しなければならない点もありますが、最も網羅性が高く、これに代わりうる目録がありませんので、今のところ最重要な基本図書となっています。9冊のうち8冊が五十音順の書名目録、1冊が五十音順の著者別索引です。ごく手軽にある人の著作一覧を知りたい場合にはこの著者別索引が便利です。ただし、人名の読み方がわからないと困ります。さて、この著者別索引で井原西鶴をひいてみましょう。名前の下に西鶴の別称がいくつかあって、その後に『嵐無常物語』以下延々と並んでいます。その個々の書名によって書名目録を見て行けば、それぞれの版本の所在がわかるのです。また、こうした江戸時代の出版物がどんな出版社から出ていたかを調べたい場合には『徳川時代出版者出版物集覧』（矢島文亮編 万葉堂書店 2冊 1976）があります。

8. 「小大君集」はどう読むのか、それはどのような本か、また活字本はあるのか。

前に見たように、読み方がわからないというのが、実は一番やっかいなのです。たいていの目録は索引も含めて書名を読めるものとして編集しているのですから。特に古典ものは困ります。でも方法がないわけではありません。難読索引というのが付いている目録があるのです。

『増訂国書解題』（佐村八郎編 六合館 2冊 1926）と『増訂日本叢書索引』（広瀬敏編 風間書房 1957）には画引索引、『国立国会図書館蔵全集叢書細目総覧』（紀伊国屋書店 2冊 1973—77）には部首別索引があり、それぞれ漢和辞典をひく要領で調べます。『全集叢書細目総覧』の索引が収録数が一番多いので、まずこれを使うといいでしょう。索引で「こだいのきみしゅう」と読むことができます。その読みから『国書総目録』の該当個所を探しだします。そこには右の図版のようにあって、類は種類、著は著者、写は写本の所在、版は版本の所



上、国書総目録 下、同書「小大君集」の項

在、活は活字本、複は複製本を示します。この記事から「小大君集」は歌集であり、活字本が7種類あることがわかります。これだけでは足りませんので、解題書によって詳しい解説を知らなければなりません。解題書の一般的なものとしては『世界名著大事典』（平凡社 8冊 1960—62）『国書解題』等、また、1つの叢書の解題ですが、幅広く使えるものとして『群書解題』（統群書類従完成会 30冊 1960—67）があります。『世界名著大事典』は古今東西の古典的名著約11,000点について解説を加え、外国書の場合は日本語訳の有無、収録全集叢書の案内、索引としては著者と書名があります。『国書解題』は慶応3年までに著わされた日本人の著作約25,000点を載せています。『群書解題』は『群書類従』正統編の収録書約3,500点につい

ての解題書で、内容に信頼のおけるものです。この3者で「小大君集」をひいてみますと、『世界名著大事典』は不載、『国書解題』は「こおほのぎみしふ」であるが解題部分は使いものにならないほど簡単、『群書解題』は「コオオキミシユウ」の他に「こおほきみしふ」の古訓を示し、書名、作者、本文、参考文献について西下経一の解題があります。この中には「こだいのきみしゅう」の読みを採らなかった理由にももちろん触れています。このような例もありますので、『国書総目録』等を見てその本が『群書類従』に入っていることがわかったならば、必ず『群書解題』を併せて読むことをお勧めします。また、「小大君集」のように歌集であれば文学関係の事典や『和歌文学大事典』（明治書院1962）その他の専門事典、場合によっては書道関係の事典に詳細な解説のあることもあります。調べごとをする場合は、前にも書いたように、1冊の参考書だけで安心してはいけません。面倒なようでも必ず複数のものに当たって確認してください。間違いとまで言えなくても細かい相違にぶつかったり、殊に出版年の新しいものはそれだけ充実していることが多いのです。また、戦前の出版物は旧かなづかいによっていることに注意を要します。今の人にはかなりたいへんですが、それに慣れなければ勉強になりません。

9. 江戸時代の地理案内書で『江戸名所図会』というのがあるそうだが、それはどんな叢書に入っているのか。

最後は古典ものでどこかの叢書に入っているのを探さなければならない例です。『枕草子』その他古典中の古典になれば、あれこれ探さなくてもその辺にいくらでもあるでしょうが、ちょっと聞きなれないものになると、やはり目録で調べなくてはなりません。叢書目録とか叢書索引と言われるものを使うのですが、それには大きく2つの機能があります。1つは個々の書名からそれがどの叢書に入っているのかを求める。他の1つはある叢書について解説し併せて収録書名を一覧するというものです。古くからあるのは『日本叢書索引』、近くは『全集叢書細目総覧』ですが、前者は昔のもの、後者は国立国会図書館だけの所蔵目録ですので、限界があります。そこで、より包括的な目録としては『国書総目録』を利用するといいいでしょう。先に述べたように活字本の有無を表示していますので、どの叢書にあるかはもちろん、単行本の有無も簡単にわかります。『江戸名所図会』の場合『有朋堂文庫』その他2種類の叢書に入っているのが記載されています。

以上、例をあげて説明をしましたように、本を探がすための道具の本、また、道具としても使える本があるのです。実際に本を探がす場合、それらを存分に使いこなせると、どれほど便利でしょうか。書誌とか目録とか称される多くのうちで、どの本にどの程度の信頼をおけるのか、或いはどんな特色があるのか、そんなことを考えながら道具を使いましょう。決して廻り道ではありません。本を読むために、また、本を調べ本で学ぶためには、こうした時期が必要なのです。探がすために、そして、見出した本に実際に触れるために、図書館を利用してください。



左『日本書誌の書誌』

天野敬太郎編 巖南堂書店 昭和48年刊
日本国内で昭和45年末までに刊行された書誌類が一覧できるもので、現在総載編（一般書誌）が発行されている。

右『全集叢書細目総覧』

本文参照

復刻版『説話大観 大語園』全10巻

名著普及会 昭53

請求番号 388 I 97 1—10

書店では民話コーナーなどが作られ、民話・説話が静かなブームを呼んでいるようである。今度、昭和10・11年、平凡社より刊行された東洋説話1万集録の説話集『大語園』(巖谷小波編)が名著普及会より『説話大観大語園』として復刻再刊された。図書館でも購入整理済である。

編者、巖谷小波(明治3年—昭和8年)は童話「こがね丸」で知られる明治・大正時代の児童文学者・童話作家である。2千篇を超えるという小波の童話・お伽噺は日本の子供たちが手にしたはじめての本格的な読み物であった。小波はこのかわら「日本にある神話という神話、伝説という伝説、口碑という口碑を一定の書式のもとに一部の書物に集めてみたい」(『東洋口碑大全』序言)という願いを持つようになる。博文館から第1巻を出しただけで中断していた『東洋口碑大全』を拡大発展させたものとして明治40年、木村小舟を助手に編集に着手したのがこの『大語園』である。昭和8年小波の死により、次男の榮二にひきつがれ、2年後昭和10・11年に平凡社から刊行されたのである。企画の年より28年を経過する大事業であった。

全10巻からなるこの説話集は、日本・中国・

朝鮮・インドの神話・伝説・口碑・寓話など約1万を題目の五十音順に排列し、口語体に書き改め膨大なものは要約して読みやすくされている。収録はすべて文献により、文末に「古事記」「想山著聞奇集」など出典も明らかにされている。10巻目は諸神・仏陀・魔性などに大別された分類目録と索引である。この分類目録と索引によりめざすテーマ、題目に行きつくことができる。現在においても評価されるべきものといえるだろう。

しかし、『世界名著大辞典』(平凡社刊)の中で山室静氏が「『語園』の語は中国に用例がある由だが、一般化していないのだから、これを用いたことは内容をあいまいにして不得策だったとしなければならぬ、本書がもっと適切、明快な名前をもっていたら、もっと広く世間に知られたであろう」と述べているように、なじみのない『大語園』という書名や当時の説話・伝説に対する一般の認識の低さなどにより、その有用な内容にもかかわらず埋もれてしまったのである。正当な評価は今後の再刊後になされるといわれる所以である。

『大語園』は文献による説話の集成であるが直接語り手から採集した口承説話の集成もある。図書館に入っているものの中からいくつか紹介しよう。

テーマ別に編成されているものには、関敏吾氏による『日本昔話集成』(角川書店刊)、及び

(8ページへ)



書齋訪問

中山周三先生 (日本文学)

雪になりそうな11月中旬のある日、中山先生宅へおじゃました。玄関にはお名前と並んで“原始林社”の表札もかけられている。通巻385号を数える短歌雑誌「原始林」の発行所でもあるのだ。

10畳程の洋間を書齋にしておられる。南向きの明るい部屋である。壁面の一方が天井までの作り付けの書棚になっており、その奥に4畳程の書庫があった。仕事はもっぱらこの書齋でされるので、必要な資料は全部揃っている。万葉関係や折口信夫、柳田国男、斎藤茂吉などの全集が目についた。詩歌集、最近の単行本も並んでいる。書庫は短歌関係の雑誌で「アララギ」「短歌」等貴重な資料も少なくない。特に北海道関係の資料は研究者が資料調査に来るほど。

「国学院大学では折口信夫先生や武田祐吉先生の授業も受けることができた。折口先生はひとつとつとした語り口だが奥深い魅力のあるものだった。歌は在学時代からはじめ、釈道空(折口先生のペンネーム)の歌に心酔した。そのうち茂吉にも傾倒していった。最近はや若い人で歌を詠む人が少なくなった。20代はやればぐんと伸びる時期なんだが……。」

この1年は腰を悪くして遠ざかっているとおっしゃるが、札幌市内の古本屋さんとは戦前からの付き合いで、今でも行けば値切らなくても負けてくれるほどだそうだ。『海の声』『赤光』『孔雀船』の初版は掘り出し物のほんの一部。



掘り出し物のひとつ、伊良子清白の詩集『孔雀船』の初版本。

「本との出合では、今日はありそうだなともいうような、何か予感があるものでね。昭和24・25年頃『赤光』の初版本を破格値で手に入れたときは何ともうれしかった。また戦前給料が80円位の頃「アララギ」一揃5円を出ていたのを逃がしてしまったのは今でも忘れられない思いだ。」

書齋の窓から一望できる庭には馬酔木や沙羅の木(夏つばき)、合歓など万葉集に詠みこまれた草木が多い。小さな池を囲んで石仏や石燈籠などが置かれている。仕事に疲れると庭の手入れをするのも楽しみのひとつとおっしゃる。帰り際見上げると、沙羅の木の紅葉が美しかった。

(7ページより)

『日本昔話大成』(角川書店刊)があり、動物昔話・本格昔話・笑話の3種類にわけられている。また北海道から沖縄までというように地方別に編成されているものには、『昔話研究資料叢書』(三弥井書店刊)、『日本の伝説』(角川書店刊)、『日本昔話通観』(同朋舎刊)な

ど。そのほか、『日本昔話事典』(弘文堂刊)、『神話伝説辞典』(東京堂刊)など事典・辞典もある。

雪に埋もれてしまうこれからの日々、勉学に疲れたひとときなど、民話・説話の世界にひたってみてはいかがだろう。

川勝正治先生 (生物学)

“書齋”が作業空間の象徴的代名詞であるとするならば、生物学者のそれはいわば、フィールドを裾の沃野とし、1個の机を頂上と見る態のものであろうとは、自ずと知れたことだった。がしかし、学界の第1線に立つ研究者のデスクのある場所が、現実にかなるものであるのか。これは、かなり興味をそそられる事柄ではないだろうか。晩秋のある日、校宅へ伺った。

まず、部屋のレイアウトだが、横長の6畳を想像していただこう。下辺右端にドアがあり、入って右手壁沿いにストーブと机が並ぶ。机の左手つまり上辺右半分が窓である。書棚は上辺



の残り半分から始まり、上から見るとちょうどアルファベットのGの如き配置で部屋の左半分を埋めている。空間といえば身を入れるのがやっつであるが、雑然とした感じではない。

書棚の中心を占めるものは、何といたっても専門分野“プラナリアの分類と生態”の関係論文(その多くは雑誌の抜刷やコピーである)で、20年余に及ぶ集積の結果が100個を越えるA4判赤茶色の書類ケースに納められて並んでいる。個人のコレクションとしては世界でも有数のものとか、それだけに、死蔵はされないが将来のことも併せて保存には十分な意を用いられている。次に眼をひくのは、ハヤカワ・ポケット・ミステリーその他の推理小説数百冊である。ご幼少の頃からのつきあいで、ガードナーが殊にお気に入り、本格ものはクリスティは出来不出来があつて駄目、ヴァン・ダインはペダンチックで好まないが、クイーンは殆んど揃っているとのことである。他に各種辞書事典、旅行関係資料、理科教育関係書などがぎっしりとつまっていて、書棚はパンク寸前、いずれ他の部屋を蚕食すること必至と見うけられた。それともご郷里(京都府)の方へ不要の資料の疎開が始まるのかもしれない。

毎年のように世界の各地で標本を採集し、また、他の研究者と連絡を密にしてその動向を知ることが、大きな仕事であり、ご自宅の書齋はその整理の場にすぎない。書齋の在るべき姿などあまりお考えにはならないらしいが、ふと、本当は畳の方が好きなんです、和服でネ、と洩らされたのが妙に印象に残った。

札幌アメリカンセンター移転

類縁機関として、しばしば学生も利用している札幌アメリカン・センターは、すでにご承知の向もありましたが、大通西28丁目(Tel. 641-0211)に装いも新しく移設されました。

同館には1972年以後の米国議会(上・下院)資料が、マイクロ・フィッシュで完全に揃っています。これは現代アメリカ研究の基本資料です。

開館時間は10時30分-18時30分(月-金)で、土・日及び日米両国の祝日は休館になります。

学生の声

図書館への手紙

短国1年 浅見悦子

すっかり寒くなりました。今年もはや十二月。まさしく *Time flies like an arrow* を実感、というところです。あなたと接するようになったこの数ヶ月をふりかえてみると――。

思う存分本を読めるうれしさで心の弾んだ春の記憶も今では遠く、レポート作製の下調べ、あるいは漠然と背表紙を眺めたり――そんな時間が多かったように思います。

手をのばせばすぐに届く状態におかれると、自然、飢餓意識も薄れ、いつでも読めると考えがちなのですね。

が、いつまでもこのような微温湯（ぬるまゆ）につかっていたいわけではありません。

「文学の研究を志す人にとっては、一人の偉大な芸術家の全作品を知るということは、その作家個人のみでなく文学一般を理解する上のもっともすぐれた方法の一つである。」

（桑原武夫—文学入門）

この提言は、文学の研究を志すか否かは別にしても、読書をする上で合理的なやり方のように思われますし、微温湯から脱出するにも良いきっかけとなり得ましょう。

というのは、白井吉見氏の言葉を拝借すれば、「一生で三冊ぐらいしか残っていない小さなものでもよいから、全部読むということが大事であります。手紙も日記もみな読んじまう。そうすると、一つの山に登ることになります。するともっと高い山や低い山が見えてくる。自分が山の上に立って高い低いのはっきりわかってくる。」ことになるからです。

残された一年余りのうちに山を幾つ登ることができるか、など予測するすべもありませんが、常に心していくつもりでおります。

今後ともどうぞよろしく。

私と図書館と本

栄養2年 石井智美

入館して2つ目の机の左端は秘かに決めてた指定席。土曜日は陽当りのいい窓際の席が大好きだった。降り注ぐ春の陽の光、きらめく夏の陽差し、秋の日の木洩れ陽、夕暮れが早くなって初冬。窓から見える景色に季節が巡るのを見つめて流れて行った時の重さ……。全てわたしにとってかけがえのないものでした。

好きな歴史や文学を正規に学ばなくなった今は徒然なるまま憧れの世界へと没入。史実を縦糸に、文学の世界をかじったものを横糸に、梅原猛の著作の世界へと……。『水底の歌』より柿本人麻呂を、『さまよえる歌集』より山部赤人を、『黄泉の王』より高松塚古墳に眠るは弓削皇子か？『隠された十字架』では真実の聖徳太子像を追い、『塔』では水平思考、垂直思考から成る文化、建築、人間、ドラマ、正史には現われぬ隠された真実に光を当てようと言う、梅原日本学。学者らの風当りはすさまじいと言う、でも柳田国男、折口信夫を読んでも正史に現われない真実は伝承として生きてきたと言う、歴史が全て明らかになり得ることは不可能なことは知りつつ、視野を拡大するの言葉の様に初めて読書において1冊の本を読み感動して終るのみならず、別な視点でその本旨を見ることの楽しみを知ったのが最大の収穫でした。テーマを求めて探し、読むこと。最近では大原富枝「建礼門院右京大夫」より彼女が伊行の娘なことを知り「女人平家」ではどの様な描かれ方を？資盛の愛人。資盛……傍若無人と言う平家物語での幼少時とは雰囲気が変わる。と、再読。行きついたのは青海波を舞った兄維盛より男、武士だったときさやかな自己発見。落人伝説を読んだり、大原御幸を調べたり「建礼門院右京大夫集」を辞書を引き味わうなど、いろいろな展開を満喫している今日この頃、雪が降り始めました。もうじき私の大好きな季節です。

雑誌論文などを探す資料

— 20世紀文献要覧大系の場合 —

出納台の10抽のケースに英米文学関係記事索引のカードがあり、横に冊子体に編集されたものが並ぶ。館所蔵2千種3万冊の雑誌や紀要の利用には、この種の手がかりが必要であろう。夏休み中に終日書庫で雑誌を探す4年生に、声をかけてみた。「少ない日で50冊、多い日は200冊くらいです。」とのこと「結局止めました、時間が足りなかったの。」そこで上記カードの登場。受入れた雑誌等が、検索手段の無いまま山積死蔵されるのを惜しみ、係が手作りで何年も工夫し、累積され形を整えて来たものである。

20世紀文献要覧大系の外国文学研究要覧英米文学編(昭52日外アソシエーツ)は、同じ意向と経過をたどり、編者安藤勝氏を中心に、フェリス女学院大学図書館の司書達が、文献カード化と整理に当り、10年をこえる作業の結実が出版されたものである。本書は昭和40年代の10年に、日本で発行された雑誌・紀要1,200誌より、研究文献15,000件を収録した「文献目録」が中心で、他に研究文献の利用案内(英米文学研究の手引基本参考文献)がある。「文献目録」は、英米文学一般(30項)と作家・作品論(665名)に大別され、それぞれに図書・雑誌・書誌と区分し、著・編者名/書名(論題)、副題、巻次(所蔵雑誌名/巻号)発行年が紹介され、該当ページ記載の詳細なものである。

配された研究文献の利用案内は、本文調査、研究文献調査から関連文献の意味など、初歩的解説から基本参考文献に続くが、基本参考文献は資料の特色を簡単に説明し、「文献目録」との内容重複を避けて、個々の作家に関する図書は、昭和40年以前のものから選ぶという心配が見受けられる。

日本文学研究文献要覧の1冊<古代—近世>編から文献目録の一部——

本編の文献目録は、雑誌紀要類と図書にわけられている。また詳細な件名索引を巻頭に設けて、目次をたすけている。

写真上段欄外の見出し語は、国文学の体系にそって、ジャンル、サブ・ジャンル、作品人名等で構成されている。

約500頁の本書の100頁近くが各種索引だが、その著者名索引は、論文執筆者と共に、座談会や対談者名まで含まれ、この心配りの積重ねが、本書と類書との相違を際立たせるのであろう。

実際に資料に当たりながら、本書と類書を対照して見た。シェイクスピアは約30頁、図書73、雑誌1024、書誌25、辞典3を取録、文献数も多く収録率も高い。類書に洩れている文献も相当紹介されている。

巻頭及び各部の凡例が、詳しく便利なこと。各種典拠資料は必ず数点を併用し、洩れや誤りを防ぐ努力をしていること。事項索引が有効なこと、索引の重出が充分信頼出来る処理をされていることなど……利用者に対する図書館員の姿勢をよく表した労作である。

書誌作成という困難な作業は、軽々しく論評を加えられないものであり、また公刊そのものが評価の材料であるが、本書にはまず何よりも収録率を更に高めることが望ましい。また利用案内中グレーム・グリーンを材料とした論文作成の実例は、親切な手引とも見られるが、書誌の性格を考えると勇み足であろう。

ともあれ文献数の異常な増加の中で、これらの書誌を何冊も何十回も通過しなければ、雑誌・紀要所載の研究論文は、充分な利用ができなくなるのだろう。当館では20世紀文献要覧大系の、日本文学<古代—近世>日本文学<現代><現代—補遺>社会学を所蔵しているが、何れも昭和40年代の10年間を編集対象として、各冊約2万件の文献を取録している。具体的な編集も成果も異なるが、今は触れない。今後も増備される見込みである。

種別	記号	出版年
●● 基礎的資料		
●● 基礎的資料	『日本文学研究』1巻1号—1巻4号(1971—74)	42(1) 42(2) 42(3) 42(4)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』5巻1号—5巻4号(1975—78)	42(5) 42(6) 42(7) 42(8)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』6巻1号—6巻4号(1979—82)	42(9) 42(10) 42(11) 42(12)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』7巻1号—7巻4号(1983—86)	42(13) 42(14) 42(15) 42(16)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』8巻1号—8巻4号(1987—90)	42(17) 42(18) 42(19) 42(20)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』9巻1号—9巻4号(1991—94)	42(21) 42(22) 42(23) 42(24)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』10巻1号—10巻4号(1995—98)	42(25) 42(26) 42(27) 42(28)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』11巻1号—11巻4号(1999—02)	42(29) 42(30) 42(31) 42(32)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』12巻1号—12巻4号(2003—06)	42(33) 42(34) 42(35) 42(36)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』13巻1号—13巻4号(2007—10)	42(37) 42(38) 42(39) 42(40)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』14巻1号—14巻4号(2011—14)	42(41) 42(42) 42(43) 42(44)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』15巻1号—15巻4号(2015—18)	42(45) 42(46) 42(47) 42(48)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』16巻1号—16巻4号(2019—22)	42(49) 42(50) 42(51) 42(52)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』17巻1号—17巻4号(2023—26)	42(53) 42(54) 42(55) 42(56)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』18巻1号—18巻4号(2027—30)	42(57) 42(58) 42(59) 42(60)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』19巻1号—19巻4号(2031—34)	42(61) 42(62) 42(63) 42(64)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』20巻1号—20巻4号(2035—38)	42(65) 42(66) 42(67) 42(68)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』21巻1号—21巻4号(2039—42)	42(69) 42(70) 42(71) 42(72)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』22巻1号—22巻4号(2043—46)	42(73) 42(74) 42(75) 42(76)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』23巻1号—23巻4号(2047—50)	42(77) 42(78) 42(79) 42(80)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』24巻1号—24巻4号(2051—54)	42(81) 42(82) 42(83) 42(84)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』25巻1号—25巻4号(2055—58)	42(85) 42(86) 42(87) 42(88)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』26巻1号—26巻4号(2059—62)	42(89) 42(90) 42(91) 42(92)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』27巻1号—27巻4号(2063—66)	42(93) 42(94) 42(95) 42(96)
●● 基礎的資料	『日本文学研究』28巻1号—28巻4号(2067—70)	42(97) 42(98) 42(99) 42(100)

NEWS

図書館長 3 期目へ

昨年9月で図書館長の任期を終えた伊藤政雄教授は、同月の教授会で3選され、引続いて図書館長の職責に当ることになりました。

雑誌整理の変更

所蔵雑誌の取扱いが、何段階かにわかれて変更になり、逐次実施される予定ですが、取敢えず書庫内での並べ方が大きく変わりました。

和雑誌と洋雑誌の棚区分をやめて、発行国、使用言語に関りなく、すべての雑誌(紀要・報文など)を一括して雑誌名のABC順に並べました。従って合本などに付けられている、今迄の雑誌分類とその請求記号は無視します。

書庫内で、雑誌を利用する際には、雑誌名によって探してください。改題誌、別冊、類似誌名、同誌名の別誌等には、案内板が入っていません。他にも誌名見出し、目録など利用に結びついた整理が検討されています。

なお利用にあたって、不明なこと、気がついたこと、不便なことなど、どうぞ出納台の係員に声をかけてください。

増加雑誌紹介

今年度閲覧室備付になった雑誌の主なものは以下の通りです。

栄養学雑誌 ふらんす 言語と文芸 カイエ
教員養成セミナー 新体育 就職ジャーナル

増加雑誌のうちカイエと教員養成セミナーは53年の創刊誌で創刊号から揃います。

また復刻版を含めてバックナンバーを多数購入しました。英語青年(28-81巻)早稲田文学(1-102号)などから、少年戦旗 キンダーブックにいたる多彩なものですが、中でもトル

ストイ研究(新潮社)1巻(大正5)-3巻は、道内には揃いがなく、2巻以後は全国でも所蔵がまれです。

Harriet Monroe が、1912年に創刊をした Poetry: A Magazine of Verse も復刻ですが、1-113巻を購入し、館所蔵分とあわせて完全揃いになりました。小冊ながら多数の詩人を産み育てて、今世紀の代表的な詩誌の一つにあげられるこの雑誌の揃いも、やはり国内では所蔵がきわめてまれなものであります。

宇野文庫取扱い変更

故宇野親美教授の蔵書を頂戴して、「記念文庫」として利用を始めてから、もう10年余りになりますが、この間の利用の動き、資料の保存状態などを見ながら、先ごろ関係者間で検討し宇野文庫の取扱いを一部変更することになりました。

1. 辞典類が閲覧室の参考図書の書架に開架になります。
2. 雑誌のバックナンバーの一部が、一般雑誌に組み込み通巻整理されて、欠巻・欠号などが補充されます。また利用の多い雑誌は、一般雑誌の複本として一緒に運用されます。
3. 資料の内容、利用の動きを参考にして、一部の資料を一般図書と併せて運用し、館外貸出も取扱うことになりました。

なお大部分の資料は、従来の通り書庫内に別置(禁帯出扱い)されますが、同文庫には製本の粗悪な戦後出版物が相当数含まれています。

これらは、現在入手困難で他館にも所蔵がなく、また利用も多くてかなりいたみが目立ちますが、この汚損(破損)資料は順次補修されます。黄色いマークの宇野文庫資料が、これからは閲覧室の書棚でも見られるのですが、できるだけ大切に取扱って、この貴重な資料を永く活用するように心がけましょう。